

1 開会

2 協議事項

(1)第三期高知市健康づくり計画（素案）について

○計画全体に係る事項について、計画案及び当日配布資料を用いて事務局から説明

【質疑応答】

〈中嶋委員〉

ページ23ですが、まず、この目標設定に関して先ほどご説明いただいたかもしれませんが、全体を通して目標の設定年度が、令和16年と計画期間の令和17年より前倒しになっているということですが、この理由を教えてくださいなというのが一つ。

もう1点、こちら先ほどご説明いただきました。同じく23ページの全体目標65歳の平均自立期間ですけど、過去の伸び、年0.1をキープする設定ということでした。

仮に、平均自立期間が全国的にまだ伸びていくという仮定をすると、その設定だと目標値というよりも、推定値になるのではないかと考えています。そうすると、男性の方が問題になってくるんじゃないかと。

今走ってる第二期計画と同様にほぼ目標値を達成しながらも、全国ベースで見ると、男性は下位グループに属すると。そういうものになっているのではないかなと想像してしまいます。

偶然ですね今晚、高知県の健康増進計画の協議会がありますが、県の場合は、前回お話をさせていただいたように、地域間の健康格差を縮小させるために、男性全国平均を目指すという設定としております。

数字のとらえ方は違うんですけど、少し県計画とのギャップがあるように感じるのですが、その点のご見解をお願いしたいと思います。

以上でございます。

〈事務局（地域保健課）〉

まず、1点目の目標値の測定年度を、1年前の16年にしている件につきましては、目標値の指標にしているものの測定の仕方が、市民アンケート調査でとるものが多いですので、それを今年度は同じ年にやっておりますけれども、次回については、前年度の16年にアンケートを実施しておいて、17年の改定に繋げていくということで、基本的に16年の年を入れております。

2点目につきましては、市町村の方では、これまでも65歳の平均自立期間を指標として活用してきておりまして、地域間の格差ということでは、全国では、県による地域差を縮小して

いくというところがあるかと思いますが、高知市の方は、これまでの状態からさらに伸ばしていくという考え方でやっております、全国の平均寿命の計算の仕方と、この65歳の平均自立期間というのが違いますので、そこは同じように比べてということは難しいかなというふうに考えております。

〈中嶋委員〉

1点目よくわかりました。

2点目ですけど、ご説明あったように数字のとらえ方は違いますけど、全国平均値っていうのがあるものですから、そこを目指す目標設定というのはできないのかなあと。

いかがでしょうか。

〈事務局（地域保健課）〉

計算の算出の方法が違いますので、同じ目標値にということが難しいとは思いますが、また県の協議会もあるということですので、後程教えていただいて、いずれにしても男女とも伸ばしていくということで考えておりますし、男性の方はより伸ばしていきたいということで考えておりますので、そこは県の方とも連携しながら取り組みを進めていけたらと思っておりますので、また教えていただきながら最終設定をさせていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

〈中嶋委員〉

この部分は、計画全体のアウトカム指標ということで、高知市がどこを目指しているのかということで、市民に向けた大事なメッセージにあたる部分と考えています。

そこは県と市、すり合わせしながら調整させていただければなと思っておりますので、よろしくお願いたします。

〈議長 船井会長〉

（追加資料3の欠席委員からの意見の）2番の小澤委員の自然環境も含めたという、19ページの自然という言葉が、3の理念に重なっているからということですね。

要するに、「自然環境も含めた」という表現を、「環境も含めた」というふうに変えるという意見ですけど。何かこの点について。

〈吉永委員〉

小澤委員さんが言われたように、自然環境ではなく、環境という表現がいいのではないかと思います。

その下のワンヘルスの、人と動物、環境の健康はひとつのところも、環境の保全、これ自然環境だけの意味ではないと思っておりますので。

それからⅡの自然に心豊かな暮らしができるという自然と、この自然環境の自然とはまた違

うので、自然は抜けてもいいのではないかと私は思いました。

〈議長 船井会長〉

そうですね。他に。特になければ、その形がふさわしいのかなという感じもしますので、環境を含めたにとどめてもいいかと思しますので、これは委員全体の意見としてよろしいでしょうか。→賛成

あと、22 ページの4番、なかなか難しいですけど。

1 から 14, 15 から 28 を二つの区分にしている点については、一つの枠内にといい意見ですけど、事務局の意見を聞いていると、そのままでもいいような気もしたんですけど、何かこの点について、委員の先生方ご意見ございますか。

難しい問題で、確かに関連しているから、全部一つの枠にするという考えと、こういう分けたいほうがわかりやすいからとしている事務局。

私自身は、それほど変わりがないから、このままでもいいかなと思ったんですけど。

ご出席の委員で何かご意見ございますか。

1 番から 28 番まで分ける必要はないんじゃないかという意見。

〈中嶋委員〉

同じ行政の立場から、事務局案に賛成でございます。

ご指摘があった点、ごもっともなんですけど、全部入れるとちょっとぼやけてしまいますので、個人的には、事務局案に賛成させていただきます。

〈議長 船井会長〉

他にご意見なかったら、この案に関しては事務局の案そのままがいいということで。

私も何か全体でやってしまうと、わざわざこういうふうに、色々焦点を合わせようというのがちょっとぼやけてしまうかなと思いますので。これをお願いします。

以上のことを踏まえまして、もう意見はないようですので、第4章の28の施策の中から10個の重点施策について事務局から説明していただきます。またその時に全体のことも含めてご意見出していただいたらと思います。では、重点施策について事務局から説明をお願いします。

○重点施策及び欠席委員からのご意見について事務局から説明

【質疑応答】

〈事務局（地域保健課）〉

（追加資料3の欠席委員からの意見の）一覧表9番、計画(案)は32ページをご覧ください。今後の方向性の一つ目「ライフコースアプローチを踏まえた健康管理」の下から4行目の中程、「乳児期から高齢期に至るまで継続的に支援していきます」の部分「乳児期から」ではなく、「胎児期から」として「胎児期から高齢期に至るまでライフステージに応じた健康づくりを継

続して支援していきます」としてはどうかとの新谷委員からのご意見です。

事務局といたしましては、施策3は健康管理についての施策で、胎児期の健康管理は妊娠期の健康管理ということになりますので、修正案としては「胎児期の健康状態にも影響する妊娠期も含め、乳幼児期から高齢期に至るまで継続的に支援していきます」としてはどうかと考えております。また、「ライフステージに応じた」という表現をここへ入れると、タイトルの「ライフコースアプローチを踏まえた」とわかりにくくなるのではないかと考えてここでは入れないということかどうか考えました。ここは、今回の計画の大事な部分の一つですので、皆様のご意見をお聞きできればと思います。

〈議長 船井会長〉

そしたら、その点につきまして、新谷委員の乳児期を胎児期に変更するってことで、それを踏まえて事務局の方から、妊婦さんのということで、付け加えるという。私はそういう表現にされたらいいのかなと思ったんですけど、

他に皆さんご意見、委員の先生方、ありますでしょうか。

〈植田委員〉

船井先生の言われた通りで、事務局の修正案でいいと思います。

〈議長 船井会長〉

ライフコースアプローチとライフステージと同じような感じなので、混同するというのもありますので、そこはなしでも確かにいいかなと思いますので。

事務局の意見はこうした方がいいという意見がございましたら。→反対意見なし。

今のところそれで構わないようですので、ただいまのその他の事務局の説明について、どこからでも構いませんからご意見がございましたら。

〈吉岡委員〉

中嶋委員の方からもありましたけれども、それぞれの現状の数値と、目標値がありますが、できれば、高知市がそれぞれの項目で目指している数値が、全国の平均の数値の中で、どの状況にあるのかを比較できれば、今の高知市の現状やこれから目指すものがよりわかりやすくなると思います。もし国にそういう類似した数値があれば、比較できるような資料も構えていただいたら、これからのこの健康計画の取り組みの中で、何が強みで何が弱みかというようなこともよくわかってくると思います。

〈佐野委員〉

私は動物関係になりますので、先ほどの岡林課長からの説明のところですけれども、地域猫の周知率が、30何%って上がったとはいえまだ3分の1の人しか知らないっていう。

また、各地区のブロック長、地区長と言う立場の方でしょうか。そういう方への周知徹底の

何か、広報していけばこれはさらに上がるのではないかと思います。

高知県の中で見ると小動物管理センターへの持ち込みの子猫の数の減少率が、高知市はまだ低いです。

他の地域は3分の1、4分の1と下がっていますが、まだ緩やかな低下傾向として見えますので、その辺を強力に推進していただきたいと思います。

〈事務局（生活食品課）〉

ご指摘ありがとうございます。

先ほど吉岡委員のお話になった全国的な数値との比較等も含めてですね、よく観察して参らなければならないことかと思っております。

地域猫に関しましても先ほどお話ししましたように、平成30年度からようやく始まったということで、TMRという不妊去勢をして放つという、それに関しては24年度から施策として行って参りましたが、まだまだ減少率はおっしゃる通り低いところでございます。

年々減少傾向にはございますので、さらに努力をして参りたいと考えておりますので、またご指導よろしく願いいたします。

〈小笠原委員〉

全体的にこの重点目標といいますか、施策、非常によくまとまっているとは思いますが、それぞれ目標の指標があって、現状値そして目標値というのがありますが。この目標値というのが適正なのかどうなのかというのは正直わからないのですが、一つ、この意見が正しいのかどうかかわからないのですが、じっくりこないというのは、施策1の目標で、27ページですね。

「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」が、現状の93.4%、目標値が96%と。

そもそも論になりますけど、この目標値というのがまず設定しないといけないのかっていうと、この2.6%アップするのは、28ページに書いてある今後の方向性、こういう指針に沿って、施策をすることで2.6%上がるということなのか。

それと目標の指標。「この地域で子どもを育てたい親の割合」という、例えば自治体が行う経済的支援とかそういうものを設けて、この今後の方向性だけで2.6%上げるっていうものなのか。

個人的に思うのが、こういうものっていうのはおそらく、経済的支援というのが非常に大きいのではないかと。だからあえて目標値を具体的に上げるのではなくて、前年より向上というような漠然とした言葉にした方が個人的にはいいんじゃないかなっていうのは思っています。

〈事務局（母子保健課）〉

ご指摘をいただきました目標値として、指標を「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」というところですがこれは、施策の目標、指標として設定したことが、ちょっとじっくりこないということですが、実はこの指標ですが、「すこやか親子21（第二次）」の指標に準

じております、基盤課題C「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」という課題に対しましての健康水準の指標の一つとして、国が挙げていたものです。

これにつきましては、乳児期の3、4ヶ月児の健診などで、「すこやか親子21」ということで、アンケートの項目の一つにもしております。それで県下的にデータについては県を通じて国の方にも上げているという指標でございます。

それが「この地域で子育てしたいと思う親の割合」ということで、国の平成26年度のベースラインが91.1%。中間評価の5年後に93%で10年後の設定として最終評価が95%だったということがございまして、高知市の現状値が93.4%であるので、目標値としては、令和16年には95%上回る、96%を目指すという具体的な指標として位置付けて入れたものです。

〈事務局（母子保健課）〉

あわせてちょっと追加をさせていただければと思います。

指数のところでございますと、すこやか親子21という形で指標が出ております。これについて、今回選定をさせていただいたわけですけれども、小笠原委員がおっしゃられました、経済的な支援とかという部分が入れているのかということですが、あくまでも私たちの母子保健という分野でございますと、親子に対する支援であったりという中での環境の部分です。

最初に説明をさせていただきましたが、子育て世代包括支援センターであったり、地域の支援センターであったりとか、そういった部分の整備を含めて、子育てをする環境にとって、地域で子育てをしたいと思うというような形で伸ばしていきたいという形のポイントのあげ方と考えておるところです。以上です。

〈議長 船井会長〉

そうですね。

難しいものですが、一応国の方針があつてということなので。

〈吉永委員〉

施策1のところですが、健やかな誕生への支援ということで、妊娠期のことは結構重点的に書かれているのかなと思ひまして、やはり健やかに、安心して誕生したあと、安心して子育てができるということも含めると、産後の支援を少し今後の方向性のところに入れていただいたらと思うのですが、このアンケート調査の23ページ、子育てについて気軽に相談できる人や機会、それから24ページの育児の孤独感であるとか、そういったアンケートを見ますと、非常に高知県出生数も少ない中で、高知市に分娩施設が集中しているわけですが、産後ケアをやっぱりすべてのお母さん方に受けていただいて、この少ない出生数、妊婦さんあるいは、その後のお母さんたちを手厚く支援していくことが重要だと思いますので、今後の方向性のところに、妊娠早期から産後も含めとか、そういった言葉を入れたらどうかと思ひました。

子育て世代包括支援センターなんかは、非常に手厚く支援をしてくれているところですよ。

私は看護協会で助産師の交流会等もしておりますが、産後ケアの現状についても意見交換をしたのですが、分娩施設がもう県内 10 施設しかないですが、分娩、お産をしたところと、早急にやはり地域へ帰った時に連携をしながら、産後のお母さんたちの支援を充実していったらどうかという意見がありましたので、少し意見を述べさせていただきました。

〈事務局（母子保健課）〉

施策 1 は「健やかな誕生への支援」ということで、妊娠期から切れ目のないっていうその手前に、出産と産後、そして子育て期も含めた切れ目のない支援ということで、子育て世代包括支援センターを中心として、もちろん出産・産後含めまして、母子保健課では、伴走型相談支援なども通じながら、支援をしていく体制をとっております。

そしてまた国の方も、産後ケアを全国、各市町村に拡充していくようにという方向性も出されておまして、高知市の方はそれに則り、産後ケアの事業につきましても、拡充をしていき、そしてまた利用者も大変増えているというような現状もございますので、それも含めまして、今後取り組んでいきたいと考えております。

〈議長 船井会長〉

私は小児科医ですから、非常に子育てとかそういう周産期のことを、高知市というよりも高知県全体の問題であるのではないかと、産婦人科の先生とすごくいつも話し合ってますけど。

周産期というのが高知県全体ですごく問題になっていて、高知市にお産をする施設が集中していて、開業医のレベルではもう 3 施設ですかね。高知市内で 2 施設、四万十市で 1 施設という状況で、あとは病院での出産という形になっているので。非常に高知市はまだ恵まれているのですが、それ以外では、出産すること自体が非常に大変になってきているという。これは何とか解決しないとイケないっていうのは、産婦人科と小児科、特に新生児を扱っている先生方と話し合うので。細かな母子の本当の心身のサポートするのをやっぱり、高知市が中心となってやっていかないとイケないのではないかと。

他の市町村では、そういうことはなかなかできないので。そういうことを今後考えていきたい。特にまた、出生がさらに少なくなってくると、産婦人科の先生自体も研修などの勉強になる施設がだんだん少なくなっている。産婦人科専攻する先生だとかは、実際その経験を積まれる施設が非常に少なくなっているんじゃないかという。県内ではそういうことを産婦人科の先生も仰っているので、ちょっと考えていかないとイケないかな。

〈植田委員〉

周産期のこともあるんですけど、やっぱり若いお母さんのお薬の飲ませ方とか、そういうのも苦戦しているというのをよく聞くので、薬局なんかで問い合わせしてくれるお母さんはいいのですが、やっぱり飲んでないっていうだけで終わらせている方がちょくちょくおられまして、薬剤師会として何かそういうところの取り組みができるかっていうのを、今模索しているところなんです。

乳幼児健診の場とか、そういった服薬の指導をするような場を作らせていただけたらと考えていますのでまたそういったこともご相談をさせていただきたいと思います。

よろしく申し上げます。

〈議長 船井会長〉

それぞれのお立場からご発言ありがとうございました。

(2)第三期高知市健康づくり計画策定に係る今後の日程等について

事務局から説明

5 事務連絡

6 閉会